

# 平成 30 年度多摩市立図書館事業評価

## 評価の基準

- A 取り組みどおり実施し、一定の成果があった
- B 概ね取り組みどおり実施したが、成果が少なく課題が残った
- C 取り組みどおりに実施できなかった

<p><b>平成 30 年度の目標事業</b></p> <p><b>1 基礎的活動に係る事業</b></p> <p>多摩市立図書館は、貸出や予約などの基本的なサービスについては、全国と同規模自治体との比較において、常にトップクラスに位置している。</p> <p>近年、貸出の減少傾向が続いているが、平成 30 年度は図書館システムの更新により利用者サービスが向上することから、未利用者を新たに取り込み、貸出、予約・リクエスト、資料についての相談の利用を増やすよう取り組む。</p>	
取 り 組 み	<p>図書館システムの更新をおこない、利用者用検索機能の充実や読書記録などの新機能を追加した。検索画面の画面変更や新機能の使い方については、窓口での案内や「やまぼと通信」などにより広報に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出者数 656,261 人</li> <li>・貸出点数 1,626,112 冊</li> <li>・予約・リクエスト件数 468,151 件</li> <li>・相談受付件数 77,175 件</li> </ul>
図 書 館 自 己 評 価	<p>【図書館の自己評価】[評価 C]</p> <p>「利用者サービスの向上」を目標に新しい機能を追加した図書館システムの更新を行ったが、結果的に貸出冊数や貸出点数等の利用状況に大きな影響はでなかった。</p> <p>貸出冊数等の増減は読書環境の変化や施設設備の状況など様々な要因が関係すると考えられるが、今回の図書館システムの更新や新機能の追加は、必ずしも利用者の実態に沿ったニーズに対応していたとは言えず、新機能などの分かりやすい案内が不足していたことから、想定したサービス向上への取り組みは達成できなかった。</p>
図 書 館 協 議 会 評 価	<p>【図書館協議会の評価・意見】[評価 B]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館システムの更新により、利用者サービスの向上が図られた点は評価できる。貸出点数の増加等という期待した通りの結果には繋がらなかったが、近年の貸出点数等の減少傾向は多摩市立図書館だけでなく、社会的変化等により全国市区部の公立図書館に共通して見られる現象である。むしろ、たとえば人口当たりの貸出点数では、多摩市立図書館が全国市区部の公立図書館を大きく凌駕している。こうした人口当たりの貸出点数等が一般的に漸減傾向にあることに鑑み、多摩市立図書館は図書館システム面での取り組みやその新機能についての案内の充実はもちろん、たとえば貸出につながるイベントの実施等により、図書館を利用していない市民への働きかけ等、幅広い取り組みが求められる。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">図書館協議会評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出数や予約数が減少しているなか、相談受付件数は増加している。その要因として、職員の意識が変わったとの報告があったが、利用者が図書館員に相談することで借りたい本を明確にでき、探せた結果とも考えられる。図書館には地域や市民の日常生活面の課題解決を支援する機能も求められているという意味で、レファレンスサービスは重要である。今後も質的改善に適宜留意し、サービスの充実を図ってもらいたい。</li> <li>・図書館に来館し、職員に尋ねれば丁寧に案内してもらえるが、子どもの数が減少している現状を考慮すると、図書館を利用してもらうためには来館していない利用者に働きかける工夫も必要である。</li> <li>・本事業評価全般に言えることであるが、目標や取り組み内容を具体化したほうが、図書館も各事業に取り組みやすく、また自己評価、外部評価も実施しやすかったのではないかと。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館ホームページや利用者用端末の使い方について、わかりやすい案内の作成やホームページなどでの周知、利用の向上に取り組むとともに、図書館を利用していない市民へ利用を働きかける広報やイベントの開催を検討し、利用促進に取り組む。</li> </ul>

## 2 多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業

### 基本目標 (1) だれもが使える図書館

#### 【取り組み1】より利用しやすくするための配慮

乳幼児を連れた保護者が利用しやすいよう、書架配置を検討するなど、施設の使いやすさを向上させる。

#### 【取り組み2】若年世代の図書館利用の促進

若年世代（10代後半から20代）の利用を促進するための取り組みを実施する。

#### 【取り組み3】多文化サービスの充実

外国語や外国語学習資料を増やし、多文化サービスの充実につなげる。

取  
り  
組  
み

#### 1 乳幼児を連れた保護者への配慮

・具体的な提案にはいならず、変更は行われなかった。

#### 2 若年世代の利用促進

・7月の図書館コンピュータシステムの更新にあわせて、図書館ホームページに従来のこどものページの他、「ティーンズのページ」を新設した。

・多摩市内の中学校8校の生徒41人、都立中高一貫校1校の生徒（多摩市民）3人、合計44人の職場体験実習を受け入れた。実習では継続的な図書館利用に結びつくよう、プログラムの中で、中学生に向けたおすすめ本の紹介POPを作成するほかに、オンラインデータベースの紹介など、図書館の便利な使い方を知らせた。

・中高生参加型企画(イベントや中高生による広報誌発行等)について他自治体の事例を「図書館雑誌」や他自治体図書館のホームページなどから情報収集し、検討した。

#### 3 多文化サービスの充実

・学校図書館司書研修において外国語資料に関するアンケートを実施し、資料購入の参考とした。

・多摩市国際交流センター、文化・市民協働課と意見交換を行い、図書館の利用促進に向けた連携について検討した。

図  
書  
館  
自  
己  
評  
価

#### 【図書館の自己評価】[評価 B]

乳幼児をつれた保護者への配慮については、設備的な面での変更は容易ではなく、具体的な変更案は出せなかった。

ティーンズの利用を促進するためのPRツールとして、図書館ホームページにティーンズのページを新設したが、掲載する情報の充実が課題である。職場体験においては、体験後の図書館利用につながるようにプログラムを工夫した。

外国語資料の充実のために、英語教科の観点から学校司書にアンケートを実施し、ニーズを把握するとともに、多摩市国際交流センターや文化・市民協働課と意見交換を行い、外国語を母語とする市民のニーズを把握し外国語資料を購入したほか、多読に適しているとされる英語学習資料を購入した。また、意見交換により、図書館の利用促進のため、国際交流センター広報へ定期的に本の紹介等を掲載することとなった。

図書館協議会評価	<p>【図書館協議会の評価・意見】〔評価 B 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組むべき複数の課題を認識し、不十分な点もまだあるが、その解決に向けた努力と成果が一定程度見られ、取組み全体としては概ね評価できる。</li> <li>・ 乳幼児を連れて保護者への配慮として、施設の使い易さの向上を企図し、工夫して環境整備には努めたものの、設備変更面での困難性から具体的提案ができなかった点について、たとえばおはなしコーナーにベビーカーを置く場所を用意したり、置き場所の案内を工夫するなど、ソフト面も含め少しずつでも継続的に検討、改善を進めてもらいたい。</li> <li>・ 若年世代の利用促進については、ホームページの情報充実という課題を残すものの、中高生が図書館に親しみを持つイベントや事業の準備を進められたことは評価できる。実施に向けた道筋も併せて検討できたらなおよかったと考える。</li> <li>・ 職場体験を数多く受け入れており、地域の生徒の教育に積極的に取り組んでいる点は、高く評価できる。本プログラムは受け入れた生徒に図書館の便利な使い方を教える等の啓発内容も含まれていることから、若年世代の利用促進にも繋がる。業務をこなしながらの受け入れは大変であろうが、今後も引き続き取り組んでもらいたい。</li> <li>・ 小学校低学年など、低年齢層へのアプローチも検討してもらいたい。小学校2年生を対象とした図書館の利用体験も実施しているとのことであるが、図書館員が学校に出向いて利用案内するなどの活動も考えられる。今後の展開を期待する。</li> <li>・ 現代社会においてニーズの高い外国語（・学習）資料の収集強化等、多文化サービスの充実という課題については、関連諸組織との連携のもとに着実に推進したことは評価できる。引き続き、市民のニーズを踏まえて取り組んでもらいたい。</li> </ul>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児を連れて保護者が利用しやすい環境作りについて、各図書館の実情に合わせ、ハード面だけでなくソフト面でもできることについて引き続き検討し、取り組んでいく。</li> <li>・ 図書館ホームページのティーンズのページの情報充実に取り組むとともに、中高生の利用促進につながるイベントの実施に取り組む。</li> <li>・ 外国語（学習）資料の収集を行うとともに、関連部署と連携し、対象者の図書館利用につながるようにPRしていく。</li> </ul>

## 基本目標（２） 子どもへのサービスの充実

### 【取り組み４】 多摩市子どもの読書活動推進計画の推進

第三次子どもの読書活動推進計画の重点施策である「支援の必要な子どもたちへの取り組み」としてLLブックなどの資料の収集に取り組むほか、子どもへのサービスの充実に取り組む。

取り組み	<p><b>４ 第三次子どもの読書活動推進計画の推進</b></p> <p>計画推進の体制づくりのため、第三次多摩市子どもの読書活動推進連絡会等設置要綱を制定し、各推進連絡会を開催した。（推進連絡会 ２回、小・中学校連絡会 ２回、市民ボランティア連絡会 ３回、庁内連絡会 ２回）また、第三次計画に定める具体的な取り組みの着実な推進のため、図書館、関係課、市立小・中学校の各々が、その実施方法と実施時期の検討を行い、これをアクションプランとしてまとめた。</p> <p>重点施策である「支援の必要な子どもたちへの取り組み」としては、発達支援室、教育センターとの今後の取り組みについて意見交換を行うとともに、発達支援室、教育センター、児童館・学童クラブ等への団体貸出用のLLブックの購入を行った。</p>
図書館自己評価	<p><b>【図書館の自己評価】 [評価 A]</b></p> <p>第三次計画の初年度にアクションプラン（図書館、関係課、小・中学校）を作成したことで、今後、年１回の振り返りや情報共有に活用できることになった。</p> <p>重点施策については、まずはすぐ取り組めるLLブック等の図書の収集と貸出の促進を行った。</p> <p>おはなし会等については、「マチカゴ」アプリの配信に参加しPRを充実させると共に、各館では特別おはなし会の充実、外国語のおはなしやプレママ・プレパパを対象とした取り組みを進めた。</p> <p>また選書については、廃棄、買い替えの取り組みを進めることで、児童書書庫の整理を進めることができた。</p>
図書館協議会評価	<p><b>【図書館協議会の評価・意見】 [評価 A]</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図書館、関係課、小・中学校が協力しての第三次子どもの読書活動推進計画のアクションプランを作成することにより、情報を共有しての具体的なスケジュールづくり、計画の着実な推進の基盤が整った点が評価できる。</li><li>・ボランティアの活動を円滑に推進するため、市民ボランティア連絡会において、第三次子どもの読書活動推進計画の進捗状況を確認し合うとともに、議論を活発化させる工夫を期待したい。</li><li>・おはなし会等のイベントは各館で工夫して、多様な内容で催し、それぞれ多大な成果を収めており評価できる。このうち、プレママ、プレパパは取り組みとしてはよかったが、PR不足や展開場所に課題があり、参加者が少なかった。良い本を妊娠時期から紹介することは大切であるので、対象者がいる場に行くことなどを検討してもらいたい。今後の取り組みに期待したい。</li><li>・児童書選書会議について、現場の状況を把握している地域図書館の要望を吸い上げ易いように提案様式を変更するなど、いくつかの改善を実施したことは評価できる。より効果的な選書体制となるよう先進市の選書制度に学ぶなど引き続き改善に努めるとともに、制度を生かした児童書の充実に努めてもらいたい。</li></ul>

改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>・第三次子どもの読書活動推進計画をアクションプランに基づき、着実に推進していく。</li><li>・第三次子どもの読書活動推進計画の推進のため、市民ボランティア連絡会を取り組みや課題について活発な意見交換の場としていく。</li><li>・児童書の蔵書の充実に向けて、引き続き選書会議の改善・工夫を検討していく。</li></ul>
--------	--

### 基本目標（3） 市民や地域に役立つ図書館

#### 【取り組み5】 読書活動に取り組む団体の支援

団体貸出制度の内容の充実に向けて検討し、読書活動に取り組む団体の支援につなげる。

#### 【取り組み6】 読書活動振興のためのイベントの開催

イベントの開催を通して図書館に注目を集め、利用を促進する。

#### 【取り組み7】 読書活動に関心を高めるための事業の実施

事業の実施により、市民の読書活動の広がりをつくる。

#### 【取り組み8】 地域資料の活用による地域文化の継承

地域資料への注目を集め、利用を促進する。

### 5 読書活動に取り組む団体の支援

団体貸出制度において、団体の利用に即した図書をまとめて貸出すセット貸出について、次年度から学童クラブを対象にしたサービス開始を目途に方策の検討を行い、貸出セットの選書や配送連絡車の仕様の見直しを実施した。

### 6 読書活動振興のためのイベントの開催

図書館未利用者も来場する「ガーデンシティ多摩センターこどもまつり」において図書館青空リサイクル市を開催し、あわせて利用案内を配布するなど図書館をPRした。

1月4日（金）～8日（火）の期間において市内図書館7館で本の福袋イベントを実施した。全館で381セット929冊用意、363セット890冊を貸出した。利用者アンケートを行い、好評な意見が多くよせられた。

関戸図書館において、一般向け企画展示開催に合わせ、科学の本に興味がある利用者同士が交流する読書会を開催した。参加人数は5名。

### 7 読書活動に関心を高めるための事業の実施

永山図書館軽読書コーナーにおいてビブリオバトルを大妻女子大学 OLIVE との共催により開催した。

地域資料係、パルテノン多摩が連携し、パルテノン多摩で開催された連携企画展示「調布玉川惣画図を歩く」の展示にあわせて「調布玉川惣画図」について紹介する講演会を実施した。

東寺方図書館及び豊ヶ丘図書館で併設の福祉館に出向き、高齢者を対象としたおはなし会で資料のPRをおこなった。

地域館4館と永山図書館において、それぞれ併設する施設と連携し地域行事に参加、協力した。市民や地域との交流ができ、図書館への理解、利用促進につながった。

### 8 地域資料の活用による地域文化の継承

地域資料への注目を集め利用を促進するとして、パルテノン多摩歴史ミュージアム企画展示コーナーの関連図書展示『調布玉川惣画図を歩く』を実施した。

#### 【図書館の自己評価】[評価 A]

団体の利用に即したサービスの充実を図るセット貸出しについて、次年度から学童クラブへの貸出開始を実現した。

リサイクル本配布については、ガーデンシティにてリサイクル本を配布実施。また、アンケートにて図書館のPRとしての効果を確認した。

取  
り  
組  
み

<p style="writing-mode: vertical-rl;">図書館自己評価</p>	<p>本の福袋は全館で取り組み、日頃は手に取らない新たな本との出会いの場を提供することで、図書館利用の幅を広げ、市民の生活の充実につなげる機会となった。</p> <p>一般市民が参加する科学本の交流会やビブリオバトルなどのイベントや複合施設でのイベントに連携参加し、図書館のPRが図れた。</p> <p>大人向けの読書活動の推進への取り組みが課題であったが、高齢者を対象にしたお話し会、パルテノン多摩との連携企画展示や講演会は参加者に好評であり、また市民に「調布玉川惣画図」についての関心をもってもらうことができた。パルテノン多摩等と連携することで、展示の内容も深まり、地域資料への関心や図書館の資料の利用促進を図ることができた。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">図書館協議会評価</p>	<p><b>【図書館協議会の評価・意見】[評価 A]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組むべき課題を認識し、その解決に向けた取り組みを着実に実施してきたことが読み取れるが、「市民や地域に役立つ」という目標に最も適合した事項となっているかが疑問なものもある。今後、事業計画の目標事業とその内容をさらに検討するとともに、目標の立て方も工夫する必要がある。</li> <li>・ 団体へのセット貸出は、学童クラブにはとても助かる取り組みだと思うので、積極的に進めてほしい。また学童クラブや児童館が貸出対象なので、この取り組みは基本目標（2）の子ども読書支援にも繋がる点を併せて評価できる。</li> <li>・ 現在の団体へのサービスは、その対象を学童、児童館としているとのことであるが、地域で読書活動をしている団体などにも支援対象を広げるとよいのではないか。</li> <li>・ 大妻女子大学と共催したビブリオバトル、パルテノン多摩及び地域資料係との連携による企画展示・講演会、高齢者を対象にしたおはなし会の実施等、地域に合わせた、また地域の各世代の人たちを対象にした、各館ごとの独自の工夫と視点にもとづいた様々な取組みが活発に行われ、大いに成果を上げたことは評価できる。</li> <li>・ 多摩市立図書館の中には、地域の方の支援を受けて図書館が主催しているイベント事例もあるとのことであるが、読書会などのイベントは図書館主催によるだけでなく、地域の方の力を借りて実施することも検討に値する。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学童クラブへのセット貸出について、利用アンケートを実施し、実態に合わせ利用しやすく、効果的なセット内容となるよう検討していく。また、児童館へのセット貸出についても検討し、令和2年度から実施する。</li> <li>・ 大妻女子大学と共催のビブリオバトルやパルテノン多摩との連携企画や高齢者を対象にしたおはなし会など読書活動のきっかけとなる取り組みについて、より参加者が増えるよう内容の見直しを行い、引き続き実施する。</li> </ul>



## 基本目標（４） しらべるを支え、つながる図書館

### 【取り組み９】 地域課題解決の支援

各課連携展示、パスファインダーの作成・配布を通して、地域課題解決の支援を行う。

### 【取り組み１０】 デジタル資料の提供

「しらべる」の充実のために、デジタル資料閲覧サービスを開始するほか、オンラインデータベースの利用促進、電子書籍サービスや地域資料のデジタル化研究に取り組む。

取り組み	<p><b>９ 地域課題解決の支援</b></p> <p>市役所各課と連携した図書展示、講演会への出張など 23 テーマで年間を通じ幅広く実施した。展示には、これまでに作成したパスファインダー（調べ案内）を活用した。</p> <p><b>１０ デジタル資料の提供</b></p> <p>国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、歴史的音源配信サービスの導入に向けて検討し、全館でサービスを開始した。またオンラインデータベースのサービス内容を見直し、充実するための予算措置を行った。電子書籍サービスや地域資料のデジタル化については先進事例の視察、講演会への参加、他自治体へのアンケート等情報収集を行った。</p>
図書館自己評価	<p><b>【図書館の自己評価】[評価 A]</b></p> <p>各課連携企画展示では、各課から推薦図書の聞き取りを行い、購入を進めることで、蔵書の充実を図った。各課のパンフレット、資料と図書館資料の展示により、貸し出しにもつながり、地域課題解決の支援につなげることができた。また、市民への情報提供だけではなく、各課の地域課題に対する図書館の役割についても認知が進んでいる。</p> <p>デジタル資料の提供については、国会図書館デジタル化資料送信サービスの閲覧が 3 月 20 日からできるようになり、市民の利便性が向上した。電子書籍サービスや地域資料のデジタル化については、今年度の研究を踏まえて更に検討していく。</p>
図書館協議会評価	<p><b>【図書館協議会の評価・意見】[評価 A]</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本基本目標の下で課題を認識し、その解決に向け取り組んでいることは窺えるが、検討段階のものも多い点は懸念される。現在の検討状況はもちろん、今後どのように取り組んでいくかなど、常に情報発信に取り組んでもらいたい。</li><li>・市役所各課と連携して、各地域課題に関わる企画展示や講演に、図書展示等を通じて協力し、それらを貸出サービスの拡大に繋げるとともに、その取組みを関連資料の購入に反映することで、一層の市民への情報提供を図ることができた。また、多摩市図書館ではパスファインダーを継続的に作成しているが、これを活用したサービスも展開できている点は評価できる。</li><li>・デジタル資料の提供について、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの導入に着実に取り組み、提供を開始できた点は評価できる。他方、デジタル資料の提供には予算も必要となる。そのため、電子資料の導入はもちろん、地域資料のデジタル化を含め、なにをどのように電子的に提供していくのか、優先順位をつけながら、計画的に進めていく必要がある。</li></ul>

改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>• 各課と連携し、地域課題に関わる資料を積極的に収集する。また、テーマ展示などを通じて市民に情報提供を行うとともに、作成したパスファインダーやブックリストを配布するだけでなくホームページに掲載するなど情報発信をしていく。</li><li>• 利用講座を開催するなどオンラインデータベースや国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用促進に取り組む。</li><li>• 地域資料、貴重資料のデジタル化に向け、引き続き検討する。</li></ul>
--------	--

## 基本目標（５） 弾力的な管理・運営

### 【取り組み 1 1】 本館の機能強化

図書館本館の再整備に向けて検討を進める。

### 【取り組み 1 2】 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービス向上

図書館第Ⅴ期コンピュータシステムの導入により、利用者サービスの向上、業務の効率化を図る。

### 【取り組み 1 3】 職員体制の見直し

新本館の開館を見据え、職員体制の見直しに取り組む。

### 【取り組み 1 4】 ボランティア活動の推進

ボランティア活動の推進に向け、対象者（個人・団体）、活動内容、ルールなどの枠組みについて検討する。

### 【取り組み 1 5】 事業計画の策定と評価

よりよい図書館運営のため、事業計画を策定し評価を行う。

### 【取り組み 1 6】 ICTの活用

効率的な運営、利用者サービスの向上のために、ICTの導入について検討する。

### 【取り組み 1 7】 蔵書の適正管理

限られた蔵書がより活用できるよう、蔵書の保全、適正な管理に努める。

#### 1 1 本館の機能強化

平成 28 年度に策定した多摩市立図書館本館再構築基本構想をもとに具体的な検討を深め、平成 30 年 8 月に「多摩市立図書館本館再整備基本計画」を策定した。平成 30 年 9 月から公募型プロポーザル方式で設計者選定を行い、平成 31 年 2 月から基本・実施設計の取り組みを開始した。

#### 1 2 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービスの向上

7 月 3 日に図書館第Ⅴ期コンピュータシステムを稼働し、読書記録、返却期限お知らせメール、新着図書お知らせメールなどの新たなサービスが始まり利用者サービスが向上した。これらの機能を便利に使ってもらえるよう「やまばと通信」に記事を掲載するなど利用者への普及に努めた。

#### 1 3 職員体制の見直し

本館再整備の検討にあわせて、職員体制の見直しについても検討を行い、基本計画に運営体制の整備と職員育成の方向性を示した。

#### 1 4 ボランティア活動の促進

ボランティア団体向けの講座を公開講座とするなど、ボランティア活動に関心を持ってもらえるような取り組みを実施するほか、絵本かたりかけ事業の新規ボランティアを募集し、新規に 12 名の登録を得た。既存のボランティア活動以外にボランティア活動を広げるための研究については取り組むことができなかった。

#### 1 5 事業計画の策定と点検評価

図書館協議会に事業評価について検討し、平成 30 年度の事業計画から、図書館協議会にも外部評価を依頼し事業評価を実施することになった。

#### 1 6 ICTの活用

ICTによる利用者サービスの向上と効率的な運営を目指し、その導入に向けた検討を行った。基本計画にICTの導入を位置づけ、新本館の開館を見据えて、関戸・永山・新本館に導入を予定する。

取  
り  
組  
み

	<p><b>17 蔵書の適正管理</b></p> <p>「やまばと通信」で多摩市立図書館の管理運営に関する規則第6条に規定する資料の弁償について案内するとともに、汚損や破損の防止について呼びかけた。</p> <p>また、管理、利用しやすい適正な冊数についての利用者アンケートを実施し、3,000件以上の回答を得た。</p>
図書館自己評価	<p><b>【図書館の自己評価】[評価 A ]</b></p> <p>第V期システムを予定通り7月に稼働することができた。省力化やサービスの向上が図られた一方で、個々のサービス、使い方については市民・利用者への周知が不足しており、今後丁寧な説明・案内のしかたを検討するべきである。</p> <p>新本館については「多摩市立図書館本館再整備基本計画」を策定し、設計者の選定を行い、年度内に基本・実施設計に取り掛かることができた。また、ICタグの導入について令和2年度の導入をめざし、計画を進めることができるようになるなど、管理、運営面で大きな前進があった。</p> <p>事業評価については、図書館協議会の協力を得て、具体的な手順、スケジュールを決めた。事業計画の実施結果について自己評価・外部評価により評価し、次の事業計画に反映させ改善を図るPDCAサイクルによる図書館運営に、令和元年度から取り組む。</p>
図書館協議会評価	<p><b>【図書館協議会の評価・意見】[評価 A ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が発展するために取り組むべき課題を認識し、着実に取り組みを進めていることが確認できる。他方、取り組みが多岐にわたるためか、不十分な点もみられる。</li> <li>・システムに関連して、子ども向けOPAC講習会は参加人数が少なかったとのことであるが、周知不足や方法に問題があったものと考えられる。他の市民への広報等を含め、今後の展開に期待したい。</li> <li>・本館再整備に向けて、図書館が抱える課題や市民の意見、要望等を幅広く行政政策に反映すること等を重視する観点から、図書館運営体制と相俟って職員体制について、自治体が直接運営、管理する方式に決定した。今後、具体化に向けて更に検討されていくことを期待する。</li> <li>・取り組み項目も多く、1つひとつ重要な活動が多いなかで、全てを完璧にやることは難しい。そのような中で、通常の図書館サービスに大きな影響を与えることなく遂行したことは評価できる。</li> <li>・新本館に関しては、平成30年8月「多摩市立図書館本館再整備基本計画」が策定され、それを据えての職員体制の見直しも進められる等、新本館再整備に向けた取組みが着実に推進されている。</li> <li>・事業評価については、平成30年度事業計画から自己評価、外部評価を行い、次年度事業計画へ反映させるシステムの導入を決定し、現在、利用者サービスの向上と事業の効果的、効率的運営等を目指して、評価の実施段階に入っていることは評価できる。</li> </ul>

改善の方向性

- ・多摩市立図書館本館再整備基本計画に基づき中央図書館の整備事業に着実に取り組む。
- ・事業評価について、本年度の評価方法を見直し、改善をはかる。